父親の子育て関与に対する母親の批判行動

— 幼児をもつ父親を対象に —

○加藤道代・神谷哲司

(東北大学大学院教育学研究科)

キーワード: 夫婦ペアレンティング調整行動, 批判, 父親関与

Mothers' Criticism of Fathers' involvement in Families with Infants

Michiyo KATO, Tetsuji KAMIYA

(¹Graduate School of Education, Tohoku University)

Key words: coparenting regulation, criticism, fathers' involvement

目 的

家族において個人や二者関係に生じる体験は、他の家族成員や成員同士の関係と相互影響関係にある (Minuchin, 1985; Cox & Paley, 1997)。子育てにおいても、「母子+父子+父母」というサブシステムの統合を視野に入れた研究や、夫婦はどのように「父母として共に」子育てにあたっているのかという夫婦ペアレンティングの調整過程の解明が必要であるが、そのとりくみは未だ少ない。これらを踏まえ、本稿では、父親の子育て関与に対して母親が行う批判行動は、どのような文脈において生じ、父親の目からはどのように受けとられているか、母親の批判に対して父親はどう対応し、一連の父親と母親のやりとりのプロセスにおいて子どもはどのように関わっているのかを検討する

方 法

＜調査対象＞第一子が 2.3 歳の子どもをもつ父親を対象に半構造化面接調査を行った。(株)クロスマーケティングの登録モニターの中から第一子年齢と性別を条件とし、男児の父親 3 名、女児の父親 3 名の計 6 名の協力者がリクルートされた。

＜調査内容＞夫婦ペアレンティング調整尺度(6 件法): 加藤・黒澤・神谷 (2014) により、父親の子育て関与に対する母親からの働きかけを検討するために作成。“促進”および“批判”の 2 因子から構成されるが、本稿は、父親が母親の気に入らない行動をした際の拒否、非難を父親が認知しているかを回答する父親版“批判”7 項目を中心に報告する。まず批判尺度項目に回答後、7 項目の中から数項目選んでもらい、日常の子育て場面で思いつくエピソードを語ってもらった。その際、母親の批判行動の経緯、父親の対応、エピソードの過程における子どもの存在について確認をした。また、エピソード中の行動、感情、意図等を明らかにするために質問を加えた。IC レコーダに録音し、エピソードを文字化してまとめた。

＜倫理的配慮＞本研究は東北大学大学院教育学研究科研究倫理審査委員会の審査と承認を得た(承認番号 15-1-016)。

結 果

父親の認知した母親からの批判行動の平均値の範囲は、2.00～3.57 点。C3, C6 からのエピソードが多く語られた。

表 母親による父親関与への批判行動 (C1～C7) に関する父親の語りの生起

協力者	性別	C 得点平均	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	その他
O	男	3			○					
P	男	3.57						○	○	
Q	女	2	○	○						
R	男	2.43				○		○	○	○
S	女	3.29			○					○
T	女	2.57			○			○		○

(6件法)

C1～C7の中で語りがあった場合に○で表している。C1～C7は尺度項目。

＜C1 あなたのかわりで気に入らない行動を他人に話す＞は、父母のやり方や考えの違いや (O, Q), 「手伝ってくれない」愚痴 (O) を母方祖母や友人に話す。直接父親に話さないのは「直接ぶつかると逃げ場がないから」「直接言ってもいいが、手伝えない負い目があるので我慢 (O)」「議論したが

譲歩 (Q)」している。＜C3 イライラしていることをあなたに対する態度や表情に表す＞は、「久しぶりの有給休暇を家族に使わずに友達との旅行に使った時、『自分だけ遊んで』という気持ちだったと思う (O)。「家事育児をやらない時 (R)」。やらない理由は「仕事の忙しさ、大変さ、疲れている」「子どもが言うことを聞かない。子どもがお母さんじゃないと (R)」。母親にとっては、子どものことは今すぐやってほしいが「ちよつと待って、キリが悪い」と「頼まれてもすぐに動かない時 (S)」。「夜泣きで母親がイライラしていて、感情をぶつけられた。僕は僕なりにいろいろ手伝っているのに正直哀しかったが、ぐっと我慢した。…子どもの成長でおさまった (T)」。

＜C4 あなたのしたことは間違っていると思う＞とあなたに言う＞「子どもの質問に生返事して意見された (R)」

＜C6 あなたを非難する＞母親にやり方があり、父親の対応が不十分だった。「洗いが悪いとか、遊びすぎたとか。買い与えて甘やかしたとか。頑張ったつもりなのに (O)」「母親にやり方があり、理屈でせめたら無視された。食べさせ方でもめた。子どもの成長で解決 (P)」。「もっと関わって。でも関わっていないわけじゃない。基本的に呼ばれたら行く (Q)」「他のパパはもっとやってるよ。何もしないじゃんって。 (R)」「子どもへの言葉づかいを批判。確かに気をつけなきゃ (T)」。「夜泣きでイライラをぶつけられた。頑張ってたつもりなんですけどね (P・T)」。

＜C7 ムツとしてあきれた顔をあなたにむける＞「イライラをぶつけられた。子どもがお母さんじゃないとか言って。 (P) <その他>「泣いた時は妻じゃないとダメ。協力したくてもできない (S)」。「母親は司令塔 (T)」「他のパパさんと共有したい (R)」

考 察

母親の批判は主として、父親関与への要求と父母のやり方や考え方の違いから、直接的間接的に生じていると父親は認知している。批判に対して父親自身は我慢、譲歩するが、母親の批判の中に母親の我慢を察する声もあった。両者の方針の違いについては、譲歩しつつも「頑張ってるつもり」「自分なりにやっている」と感じていた。子どもの発達過程の困難は、成長によって父母の葛藤が解消された。頻回に語られたのは「子どもがお母さんじゃないとダメ (だから関与できない)」点であった。母親側の結果 (加藤・神谷, 2017) からは、母親は「父親が自ら気づいて」「家事と育児を総合して」「やれる方がやる」ことを望んでおり、「父親だけが楽をする」とイラっとするが、「子どもが母親でなければダメなことは仕方ない」と思っている。「父親関与」に向けて、父母が気づいていないズレや伝わりにくい間接的なメッセージがあり、双方ともに当面の譲歩や我慢が蓄積することが懸念された。

(付記 本研究は、科研費基盤研究 C(17K04338, 研究代表者: 加藤道代)の助成を受けた。)